

記 入 日 2016年1月10日

1. 概 要

実践団体名	北海道釧路市立大楽毛小学校		
連絡先	0154-57-8014		
プランタイトル	大楽毛小学校防災教育推進プラン2		
プランの対象者※1	2. 3. 9. 10	対象とする 災害種別※2	2

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント!】

本校において最も警戒せねばならぬ災害は、地震と津波です。中でも津波に対する備えは喫緊の課題であり、大規模な避難が必要となる地域です。これまでも「子ども達全員の命を守る」を合言葉に防災に関する知識を深め、不測の事態に向けてどのような備えや訓練が必要かなどを家庭や地域と連携を図りながら考えてまいりました。今年度は、より実践的な体験活動や訓練に重点を置いて取り組み、防災に関する意識を高めることを目的にしております。

【プランの概要】

～コミュニティ・スクールの機能を生かし地域と共に～

- ・非常持ち出し袋、安全ノートの準備や活用啓蒙および整備
- ・地震火災避難訓練、集団下校訓練の実施・防災意識を高めるための本や資料の整備、読み聞かせ
- ・防災教室（講義・体験活動・非常食の試食等）の実施
- ・地域や保護者と共に大津波警報発令による避難先への避難訓練
- ・防災教育のカリキュラム化

【期待される効果・ここがおすすめ!】

学校単体で避難訓練や防災教室を行うよりも、保護者や地域と共に行う成果は大きいです。年に一度でもよいので一緒に実施することをおすすめします。継続して実施していくことにより、相互理解や協力体制も強化されていきます。コミュニティ・スクールの取り組みに位置付けると活動しやすいです。

2. プランの年間活動記録 (2015年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルの確立 避難訓練や防災教育等の年間計画準備、スケジュール決定 	<ul style="list-style-type: none"> 会議での検討 安全ノートやハンドブックの作成 避難経路図等ポスター作製 避難訓練や防災教室準備 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校内における危機管理マニュアル(含む防災対策)の確立 非常避難口の確認 避難経路定期点検開始(毎月)
5月	<ul style="list-style-type: none"> プランの具体化、実践 	<ul style="list-style-type: none"> 非常持ち出しの準備依頼 	<ul style="list-style-type: none"> 安全ノートを活用した安全教室の実施 非常持ち出し袋の学校保管開始 集団下校訓練の実施
6月	<ul style="list-style-type: none"> 防災意識を高めるための本や資料の整備、読み聞かせ 	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育に関する図書購入 配架工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせボランティア「おはなし会」の実施
7月	<ul style="list-style-type: none"> 大津波警報発令時の避難訓練実施計画 	<ul style="list-style-type: none"> 町内会や近隣校など関係諸機関との連携 参加啓発プリントの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や保護者と共に大津波警報発令による避難先(学校から1.2km離れた新道)への避難訓練
8月		<ul style="list-style-type: none"> 非常持ち出しの確認依頼 	<ul style="list-style-type: none"> 非常持ち出し袋の点検、学校再保管開始
9月	<ul style="list-style-type: none"> 防災意識を高めるための本や資料の整備 		<ul style="list-style-type: none"> 地域や保護者と共に大津波警報発令による避難先(学校から1.2km離れた新道)への避難訓練 読み聞かせボランティア「お話し会」の実施
10月	<ul style="list-style-type: none"> 防災教室実施計画 	<ul style="list-style-type: none"> 防災教室必要品購入 講師打合せ 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> 防災教室実施計画 	<ul style="list-style-type: none"> 防災教室必要品購入 講師打合せ 	<ul style="list-style-type: none"> 合同防災教室の実施 講義・体験活動・非常食の試食等
12月	<ul style="list-style-type: none"> 冬季の避難の仕方等の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 冬季における注意喚起プリント作成 	<ul style="list-style-type: none"> 防火かるたなどを通じての啓蒙活動
1月	<ul style="list-style-type: none"> 冬季の避難訓練計画 		<ul style="list-style-type: none"> 大楽毛地区健全育成協議会「かるたを楽しむ会」開催(防火・防災かるたなどの実施)
2月	<ul style="list-style-type: none"> 活動のふりかえり 		<ul style="list-style-type: none"> チャレンジプラン最終報告
3月	<ul style="list-style-type: none"> 次年度の計画 		

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1】※3

タイトル	地域や保護者と共に大津波警報発令による避難訓練
実施月日（曜日）	7月11日（土）
実施場所	学校より1.2km離れた新道へ
担当者または講師	担当者・区分：企画推進～教職員 避難経路交通指導～大楽毛地区交通安全指導委員会 釧路警察署署員
所要時間または「コマ数×単位時間」	60分
プログラムのカテゴリ、形式※4	16
活動目的※5	4
達成目標	地震・大津波発生による避難における児童及び教師のとるべき基本的な行動を重点に訓練する。 スムーズな避難になるよう、避難経路や避難後の対応を地域の人と共に明確化する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	【事前】 ・保護者・地域への実施呼びかけ ・教職員による模擬訓練の実施 【当日】 ・地震発生を想定した訓練 ・安全確認、情報収集シミュレーション ・大津波警報発令による釧路新道までの避難
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・避難路周辺草刈り～地域住民 ・救急避難バック ・傷病人対応リヤカー
参加人数	約350名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ・前年度よりスムーズで時間も短く避難が完了できた。 ・真剣に取り組む姿勢が増し、「津波てんでんこ」の理解が深まった。 【課題】 ・避難完了後の学校と地域との連携のあり方
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3.項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4.項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	防災教室
実施月日（曜日）	11月7日（土）
実施場所	大楽毛小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分 企画推進～教職員 講師 ・ 草苺 敏夫（釧路工業高等専門学校 副校長・教授） ・ 金澤 太知 ほか約20名 釧路工業高等専門学校学生 ・ 西消防署大楽毛支署職員 5名
所要時間または「コマ数×単位時間」	・90分
プログラムのカテゴリ、形式※4	2. 3. 13
活動目的※5	6
達成目標	防災に関する体験的な学習と講義を実施することにより、子ども達が地震や津波等の自然災害に対する共通理解を深め、自らの命を守ることができるよう、的確に行動できる実践的な態度を培う。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体講義 「地震や津波について～大楽毛ならではの危険～」 ・ 1・2年：映像を用いながら説明・クイズ 「地震や津波発生シミュレーション」 ・ 3年：室内暗闇避難体験と新聞紙で食器などの防災グッズ作り 非常食試食 ・ 4年：クロスロードゲーム（こんな状況下の時どうするか） ・ 5・6年・簡易担架作り、ロープの結び方、三角巾を用いての応急処置などいざという時に役立つ体験活動
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクタやパソコンなどOA機器 ・ ロープ ・ 丸棒 ・ クロスロードゲーム ・ 新聞紙 ・ ビニル袋 ・ パネル ・ 乾パン ・ 保存水
参加人数	約400名
経費の総額・内訳概要	・ ロープ ・ 丸棒 ・ ビニル袋 ・ 乾パン ・ 保存水など
成果と課題	<p>【成果】 校内だけでなく様々な専門化や関係諸機関に協力を仰ぐことで、より専門的な知識を深めることができた。</p> <p>【課題】 さらに効果的に進めるため、数年の単発の取組にしないためにも、しっかりとしたカリキュラムの整備が不可欠である。</p>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等

- の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
- ※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)
 - ※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： _____】 ※3

タイトル	
実施月日（曜日）	
実施場所	
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	
プログラムの カテゴリ、形式※4	
活動目的※5	
達成目標	
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	
参加人数	
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 【課題】
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>○コミュニティ・スクールのよさを生かした防災教育の展開により地域との連携を強化して実践できた。学校単独では小さな力であっても、地域と共に進めることで大きなものになった。</p> <p>●東日本大震災が起こるまで、避難訓練は実施していてもそれ以外の防災教育はほとんど実施していなかった。その状態から児童や地域性を加味して防災教育プランを作成していくのは、何を・どのように進めるとよいのか暗中模索の状態でも苦勞した。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>○本防災教育チャレンジプランでの情報、他の実践紹介は大変役になった。学校独自で防災教室の内容を一から考えるのは非常に苦勞するが、先進的な実践等を参考にするとよい。</p> <p>●担当する人員、準備する時間などの確保において苦勞した。防災に関わることに時間や労力をかけたい思いはあっても、他にも重要案件や取り組むべきことは山積している。また、教職員や保護者の願いと対応できることへのギャップもあり、状況を説明しながらできる範囲での取り組みになることへの理解を図ることも苦勞した。</p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>○学校だけでなく、地域と一体になって取り組んできたことにより、地域で参加や協力してくれる人や組織などが増えた。避難訓練や防災教室を通して気づいたことや発信したことを町内会や関係団体に持ち帰って話をしてもらったり、手を貸してもらったりする連携強化にもつながった。</p> <p>●避難訓練や防災教室がマンネリにならないように毎回ねらいを明確にし、活動の工夫をすることが大事である。</p> <p>●限られた時間や場所、人員や費用の中でどのように実践するかも苦勞した点である。</p>

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ 釧路市教育委員会教育支援課 ・ 釧路市役所 防災危機管理課 ・ 釧路工業高等専門学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災教室計画立案協力 ・ 防災教室講師 ・ 情報提供
保護者・ PTAの組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大楽毛小学校 P T A 研修部 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災教室非常食準備
地域組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大楽毛地区連合町内会 ・ 大楽毛地区交通安全指導委員会 ・ 大楽毛地区健全育成協議会 ・ 大楽毛日赤奉仕団 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合同避難訓練参加 ・ 避難経路の除雪や草刈り協力 ・ 避難経路交通指導～ ・ 防災かるた ・ 非常食準備
国・地方公共団体・ 公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 釧路警察署 ・ 釧路气象台 ・ 釧路西消防署大楽毛支署 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難経路交通指導 ・ 防災教室講師
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大楽毛小学校「お話し会」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災関連本読み聞かせ
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 釧路高等技術専門学院 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難訓練参加



6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ・スクールのよさを生かした防災教育の展開により地域との連携を強化して実践できた。ここまで取り組んできたことは、学校単独ではなかなか進められないものばかりである。本校は、2年間の研究を経て、今年度からコミュニティ・スクールの指定を受けている。委員の方々は、このコミュニティ・スクールの協議の場で発信した防災等の問題に熱心に耳を傾け、町内会等に話題を持ち帰り、時には地域として市に要望等を伝え、避難訓練や防災教室実際の際は参加の呼びかけや訓練時の避難路の安全確保など、学校だけでは十分できない取組に積極的に力を貸していただいている。また、校区内にある学校間との連携も非常にスムーズで、本校の避難訓練や防災教室に学生や職員が参加してくれたり、消防大楽毛支署や釧路高専のように講師を引き受けてくれたりすることで、「大楽毛ならではの」防災教育の在り方が生まれつつある。地域とのつながりで防災意識を高めること、学習を深め情報を共通認識することなど、今後ますますコミュニティ・スクールの果たす役割は大きくなると考えている。 ○保護者や地域住民と共に実施した大規模避難訓練により、昨年度よりも防災に関する意識が高まった。また、保護者や地域住民と一緒に行うことで緊急時の対応、協力体制の具体的化にもつながった。 ○防災教室においては、校内だけでなく様々な専門化や関係諸機関に協力を仰ぐことで、より専門的な知識を深めることができた。参加した保護者からは「とてもわかりやすく勉強になった。たびたびこういう機会があるとよい。」「もう一度家族で話し合いたい。」などのアンケートが寄せられた。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに効果的に進めるため、数年の単発の取組にしないためにも、しっかりとしたカリキュラムの整備が不可欠である。カリキュラムとしてしっかり位置付けることができると、現在の担当者が転勤しても継続した取り組みができるだろう。 ・避難訓練や防災教室がマンネリにならないような工夫が必要である。子ども達に限らず、保護者や地域の人達も「もっと防災について知りたい。」思いがある。この声を大事にすると共に、学校だけでなく、他機関が主催する防災教室などへの参加を啓発し、学校だけではまかないきれない部分を担ってもらいたい。
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や防災教室は、今後も保護者や地域と共に継続していく必要がある。 ・防災教室は、毎年内容に変化をつけ、防災意識や防災知識をより高められるようにする。 ・安全ノートの活用や非常持ち出し袋の整備なども継続し、学校の取組を理解してもらおうと共に家庭でもできることへの啓発を図る。

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

【実践の概要紹介】

1 カリキュラムへの位置づけ

昨年度、避難訓練の事前・事後指導をしていく中で、防災教育をカリキュラムに位置付け、いろいろな教科や領域のねらいに即しながら系統的に指導をする必要性が浮き彫りになった。さらなる整備が必要な段階だが、今年度「学ぼう防災」と題し、4年生の総合的な学習に約20時間位置付け、さまざまな資料を活用しながら過去の震災の様子や地震・津波の対処法等を学び、学校外での避難に役立つオリジナルハザードマップ作りを進めている。また、5年生の保健体育に「AED 実技講習」の位置づけや道徳での震災関連の資料の活用など、無理なくできることから取り組んでいる。なお、AED講習は、PTAの研修講座にも位置づけて啓発を図っている。また、避難訓練を通して持久走を継続的に実施するのではないか、という話が教職員から上がった。さっそく体育の授業に位置付け、体力の向上を目指す取組なども実施している。



2 防災教室の実施

これまで避難訓練に重点をかけて取り組んでいるが、逃げるばかりが防災ではない。火災発生時にどうするか。避難持ち出し袋や防災グッズをどのように活用するのかなど、実践を交えながら学ぶべきことは少なくない。そこで、昨年度から土曜活動・参観日と同日に防災教室を実施している。気象台・教育大学・釧路市職員・消防署職員・釧路高専などから講師を招き、より専門的な知識の獲得や的確に行動できる実践的な態度を培うことをねらいとしている。



今年度は、西消防署大楽毛支署と釧路高専の教授や学生に全面的に協力をいただき、地震の揺れや津波発生についてのクイズと説明、暗闇での避難体験や身近な物からの防災グッズ作り、クロスロードゲーム、さらには身近な物で簡易担架作りなどの救急に関する体験活動などを実施した。子ども達は、趣向を凝らした中身に楽しみながらも防災に対する意識や知識を高めることができた。また、地域や保護者も60名以上の参加があり、「担架作りや応急処置など経験したことがなかったのでまたやってほしい。」「毎年継続して行ってほしい。」など、アンケートには好評の意見が多かった。

3 地域や保護者と共に実施する大津波警報発令時の避難訓練（学校から1.2km離れた新道への避難）の実施

何よりも一番力を入れているのが、大津波警報発令時を想定した釧路新道までの避難訓練である。本校の周辺には高い建物がなく、線路や橋、国道などが学校のすぐそばにあり交通の麻痺や遮断が予想される地域だ。そのため、1.2km離れた釧路





新道までの避難が不可欠となる。「津波てんでんこ」を基本とし、訓練は参観日と同日開催にして保護者も参加してもらおうと共に、地域や近隣の保育園と連携を図り、一斉に実施している。年に数回位置づけ、夏場だけでなく寒くなる時期や雪道での実施も昨年度から行っている。地域の人などと共に避難することで真剣に走る姿から地域の人へ訴える、あるいは地域や保育園児の姿から児童がよい影響を受けることができるのだ。さらには無理のない範囲で助け合う「共助」も生まれることが期待できる。



また、教職員の中で搬出必要品を運ぶ者、身体的に配慮を要する子を運ぶ者など臨機応変ながらも役割を明確にし、訓練でも実際に運び出している。

4 非常持ち出し袋、安全ノートの準備や活用啓蒙、緊急時メール配信制度の整備

防災対策・災害対応を考える上で「自助・共助・公助」という考え方がある。地域の特性を考えると、本校において「自助～自らの命は自らが守ること、または備えること」は、とても重要だ。その一環として「非常持ち出し袋」の学校保管を整備している。これは、参観日や土曜活動、防災教室等に見本を展示しながら学校待機の避難時に使う物と避難先の釧路新道まで走って逃げる時に持つ物とを分けて各家庭に準備を依頼している。

また、危機管理マニュアルに基づいて保護者向けには「大楽毛の子のために」というハンドブックを、児童向けには「セーフノート」を配付し、不審者や災害時の対応、約束や規則正しい生活習慣などの啓発をしている。この一部に地震時の約束や津波警報発令時の注意、学校外での避難所の記入欄等の防災に関する項目を設け、活用を呼びかけている。

地震だ！津波がくると！

- 強い揺れを感じたら、速い避難場所に避難しましょう。(警報・注意報が発令される前に津波が来襲する場合があります。)
- 揺れを小さく感じても、長時間続くような場合は、大津波が襲来する可能性があります。避難しましょう。
- 地震発生から3分後には津波警報が出ます。ラジオ、テレビ、ラジオ、サイレン、防災無線で確かめましょう。
- 警報や注意報が発令されるまで避難場所からはなれないようにしましょう。海中川にはゼッタイに近づかないこと。

津波避難場所 (高さ1.0m) →避難指示	つるの特別支援学校3F・4F 大楽毛小学校(陸上) 大楽毛下水処理場3F屋上 創設豊心病院3F 創設工業専門学校3F屋上
津波緊急避難施設	
津波緊急避難ビル	マルセンター・コンダビル2階3階屋上 エッセリア社住宅1～3階屋上 エッセリア社住宅屋上
緊急避難場所	創設豊心ビル、阿寒小学校、阿寒町行政センターなど

家族と話し合っておきましょう
うちにいるとき**大津波警報**が出たら

～逃げます。

18

津波避難場所 (高さ2.0m) →避難指示	大楽毛小学校2F 高等技術専門学院2F 創設北方開発センター2F
津波緊急避難施設	
津波緊急避難ビル	大楽毛中学校3F 大楽毛下水処理場2F 創設豊心ビル3F 創設工業専門学校3F以上

家族と話し合っておきましょう
うちにいるとき**津波警報**が出たら

～逃げます。

19



5 震災関連本の紹介や読み聞かせ、防災かるた等の実施

本校では、10年以上前から地域や保護者のボランティアによる読み聞かせが毎週行われている。避難訓練の前後には、震災に関する本の読み聞かせや図書室での特集コーナーの設置などもしている。校区の健全育成協議会が主催となって行う「かるたを楽しむ会」では、児童の実態に応じて様々なかるたを実施しているが、その中に「防火かるた」や「防災かるた」も位置づけ、啓発活動に一役買っている。

(自由記述: 1/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 2/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 3/3)